



伝統的なベルベル人の穴居住居

砂と暮らし
砂に学ぶ
ITP
だより

5

チュニジアで授業が行われた1カ月の間、毎週末に野外授業として近くの町へ繰り出した。最後の野外授業では、原住民族ベルベル人の穴居住居で、ほとんど昔のままの状態でも今も住み続けているというお宅を訪問した。石灰質の大地を掘って造った家。そこで、現在も使っているという石臼で大麦を挽かせてもらった。昔と変わったところといえば、電線が引かれていることくらいだろう。太陽光エネルギーを

ITP (若手研究者インターナショナル・トッププログラム) 国際的に活躍できる若手研究者を育成することを目指し、日本学術振興会が支援する事業。

いざ出陣！現場で遊ぶ

利用した水資源開発の現場も訪れた。ここでは、現在進行形の計画や開発、砂漠化対策などに関することを学び、より深い理解を得ることができた。

中でも興味を引いたのは、塩水を淡水に変える機械だ。殺菌、高度なる過処理を繰り返し、塩水を飲める水に変えていく。

実際に淡水化した水を飲ませてもらった。少しためらいながらコップに注がれた水を口にすると、水はしよっぱいどころか無味だった。普通に飲むことができ、感動した。

(鳥取大学大学院農学研究科学生・源実恵)
(水曜日に掲載)